

台風 8 号対策について

平成 26 年 7 月 4 日
営 農 支 援 課

I ハウス等施設全般の対策

施設については別添の「ハウス等施設の台風対策」を参照。

II 作物別の対策

1 普通作物

【早期水稻（穂揃い期～登熟期）】

（1）事前対策

- ① 深水管理にして、倒伏や乾燥風による稲体の脱水症状の被害軽減を図る。
※ただし、棚田等で深水により畦畔破壊のおそれのあるところでは注意する。
- ② 冠水しやすい水田では溝切りや排水溝の整備を行う。

（2）事後対策

- ① 冠水した水田では、速やかに排水する。
- ② 台風通過後も、吹き返しによる乾燥風で脱水状態となり、収量・品質に影響がでる場合があるので、風がやむまで十分な湛水状態を保っておく。
- ③ 沿海地で潮害（塩害）が懸念される場合は、直ちに真水で洗い流す。
- ④ 倒伏した稲はできるだけ引き起こして登熟向上に努める。
- ⑤ 収穫作業に支障が生じないように、水田内に飛散したゴミ等は除去する。

【普通期水稻（分けつ期）】

（1）事前対策

- ① 深水にして、茎葉の損傷や水分収奪等による被害の軽減を図る。
※ただし、棚田等で深水により畦畔破壊のおそれのあるところでは注意する。
- ② 冠水しやすい水田では溝切りや排水溝の整備を行う。

（2）事後対策

- ① 冠水した水田では、速やかに排水する。
- ② 強風で葉が擦れるといもち病や白葉枯れ病が発生しやすくなるので、発生のおそれがある場合は防除を行う。

【大豆（播種期）】

（1）事前対策

- ① 溝切りや排水溝の整備を行う。
- ② 培土時期に達しているところでは、培土を行い折損の軽減を図る。

（2）事後対策

- ① 播種前にある場合は、土壌水分が十分低下したことを確認して播種する。

- ②冠水した場合は直ちに排水し、侵蝕された畦は早めに土寄せする。
- ③欠株が生じた場合は早めに追播きする。

=====

★農作業安全

増水した用水路等に転落し重大な事故も発生しているので、水位が下がるなど安全な状態になるまで近づかない。

=====

2 露地野菜

【きゅうり、ピーマン共通】

(1) 事前対策

- ①栽培ほ場周辺に防風ネットを張る。(きゅうりにおいては全面ネット被覆栽培とする。)
- ②排水溝等を設置し、排水に努める。
- ③収穫可能な実は、サイズが小さめでも早めに収穫しておく。(出荷可能かどうかは出荷先と事前に相談しておくこと。)

(2) 事後対策

- ①枝の折れたものや損傷の激しいものは早目に整枝・剪定し、薬剤散布を行う。
- ②倒れた枝は上向きに誘引して、受光態勢を整え、草勢の回復を図る。
- ③傷害果や幼果は摘果して、草勢の回復を図る。
- ④速効性窒素肥料を成分で10a当り2～3kg施す。

【オクラ】

(1) 事前対策

- ①排水溝等を設置し、排水に努める。

(2) 事後対策

- ①冠水した圃場では速かに排水を行う。
- ②倒伏したら上向きに誘引し、傷害果や幼果は摘果して、草勢の回復を図る。
- ③速効性肥料を追肥し、薬剤散布を行う。

【さといも】

(1) 事前対策

- ①排水溝等を設置し、排水に努める。

(2) 事後対策

- ①冠水した圃場では速かに排水を行い、早めに追肥を行う。
- ②株元まで冠水した場合は排水、マルチを剥いでから追肥、培土を行う。
- ③根が露出しているものは、早めに追肥して軽く土寄せする。

【かんしょ】

(1) 事前対策

- ①排水溝等を設置し、排水に努める。

(2) 事後対策

- ①冠水するといもが変質するので、かん水した場合は早急に排水を行う。
- ②根が露出している場合は培土をおこない、少量の窒素肥料を追肥して、草勢の回復をはかる。

3 施設野菜

【施設・雨よけ野菜】

雨よけ栽培のピーマン、トマト等については下記の対策を行う。

(1) 事前対策

- ①ハウスバンドにゆるみがないよう、しっかりビニルを押さえる。
- ②ビニルの上から防風ネット等を被覆し、ハウスバンド等で固定すると強度が増す。
- ③ハウス妻部には筋かいを入れて補強する。
- ④台風の進路に注意し、直撃する可能性があり、ハウス倒壊の危険がある場合（25m以上の風）は、押さえバンドを切ってビニルを除去する。
- ⑤ハウスの周囲は滞水しないように排水溝等を整備する。
- ⑥防風ネットを設置しているほ場においては、根石や支線の点検を行い風雨により強度が低下しないよう対策を講じる。
- ⑦ハウス周囲を点検し、強風で飛びそうなものは片付けるとともに、燃料タンク等の付帯設備がしっかり固定されているかを確認する。

(2) 事後対策

- ①防風ネット・寒冷紗等は直ちに除去し、通風を良くする。
- ②湛水した場合は、速やかに排水を行う。
- ③傷害果や幼果は摘果して、草勢の回復を図る。
- ④速効性の窒素肥料を成分で10a当り2～3kg施す。
- ⑤草勢の低下や茎葉が損傷すると病害が発生しやすいので、その作物に登録のある農薬を散布する。

【陽熱消毒中のハウス】

(1) 事前対策

- ①台風の進路に注意し、直撃する可能性が高く、ハウス倒壊の危険性が高い場合（最大瞬間風速25m/s以上の場合等）は、あらかじめハウスの天井ビニルを除去しておくか、除去が間に合わない場合は押さえバンドを切ってビニルを除去する。
- ②ハウス内のほ場を覆っているマルチについては、風ではがれないようにするために、土を詰めた肥料袋等で重しをする。
- ③ほ場内に周辺から流水が侵入しないように排水溝を整備する。

(2) 事後対策

- ①湛水した場合は速やかに排水を行う。
- ②陽熱消毒の効果が不十分な場合は登録農薬による土壌消毒を併用する。

【いちご苗】

(1) 事前対策

- ①ほ場周囲の排水溝を整備する。

- ②ハウス倒壊の可能性が高い場合には、育苗ハウスのビニルを除去する。
- ③採苗の始まっていない親株は、倉庫など安全な場所に移動する。
- ④採苗が始まっている場合は、風で飛ばされないよう寒冷紗・防風ネット等を苗の上に直接かけて、風で飛ばされないよう固定する。

（２）事後対策

- ①倉庫等に移動した場合は、速やかに育苗ハウスにもどす。
- ②寒冷紗、防風ネットなど苗の上にかけていた被覆資材を直ちに除去し、通風を良くする。
- ③苗の冠部が土に埋まったものは、速やかに土を除去する。
- ④雨風に当たると炭そ病等の病苗が増えるので、病株は早めに除去し、登録のある農薬を散布する。

4 果樹

【果樹共通】

（１）事前対策

- ①ほ場への降雨が速やかに排出されるように園内の排水対策を徹底する。
- ②防風ネットの点検を行う。
- ③枝の分岐点が裂けるおそれのある幼木や高接ぎ樹では、枝葉をまとめて結束したり、分岐部を縄で8の字型に縛っておく。

（２）事後対策

- ①結束した枝は、早めに解いて蒸れを防ぐ。
- ②幼木・若木・根元から揺さぶられた樹・倒伏した樹は早急に立て直し、盛り土、根締めを行い、支柱で固定する。
- ③枝折れ、枝裂けしたところは切り取り、大きな傷口には塗布剤を塗る。
- ④落葉のひどいものには、日焼けを防止するために、石灰乳を塗布する。

【かんきつ類全般】

（１）事前対策

- ①風傷による葉や果実へのかいよう病の発生が懸念されるので、襲来前に銅水和剤の散布を行う。
- ②温州みかんなどのマルチ栽培では、被覆資材が風であおられないように土のう等で固定する。

（２）事後対策

- ①かいよう病の発生を防止するため、事前の薬剤散布を実施していないところでは、銅水和剤の散布を行う。
- ②塩害が懸念される場合は、6時間以内に2～3トン/10a以上の水で洗い流す。その後落葉が発生した場合は、程度に応じた摘果（場合によっては全摘果）や枯れ枝の整理を行う。

【完熟きんかん】

事前対策

- ①強風により幼果に傷が発生するため、防風ネットを設置し風を弱めるようにする。

【なし、ぶどう】

事前対策

- ①棚や防風ネットの補修を早めに行うとともに、棚の揺れの激しいところは支柱を立てて結束するなど補強を行う。
- ②側枝等の棚への誘引を見回り、ゆるんでいる場合は締め直す。

【落葉果樹】

事後対策

- ①病気の発生に注意し、防除基準に準じて襲来後直ちに防除を実施する。収穫が近い場合は、収穫前日数に注意する。

5 花き

【露地花き全般】

(1) 事前対策

- ①滞水しないように排水溝を整備する。
- ②マルチは土寄せするか、市販止め具等によりしっかりとおさえ、風による剥がれを防ぐ。
- ③生育に応じて、支柱・ネット等で誘引・固定を実施し、茎葉の損傷を防ぐ。
- ④ほ場周辺の片づけを行い、飛来物による作物の被害を防ぐ。

(2) 事後対策

- ①冠水・浸水があった場合は、速やかに排水作業を行う。
- ②必要に応じて殺菌剤、液肥の葉面散布、追肥を行う。

【シキミ】

(1) 事前対策

- ①幼木は倒れる可能性があるため、支柱で固定する。

(2) 事後対策

- ①湛水、冠水した場合は、速やかに排水を行う。
- ②倒れた木、傾いた木は無理に起こすと根が切れて、枯死する可能性があるため、段階的に起こして、正常な状態に戻す。
- ③ほ場に土砂が流入した場合、根の活力が低下して枯死する可能性があるため速やかに株の周りの土砂を取り除く。

【施設・雨よけ花き全般】

(1) 事前対策

- ①排水溝の整備、防風ネットの設置を行う。
- ②草丈がある程度伸びたものは、支柱を補強し、誘引ネット等の張りを強化して倒伏を防止する。
- ③ハウス内のかん水チューブやスプリンクラー・ミスト施設は風で飛ばないように収納あるいは固定する。

(2) 事後対策

- ① 湛水、冠水した場合は、速やかに排水を行う。マルチ栽培の場合はマルチをはがして畦を乾燥させる。
- ② 台風後の高温・強日射の被害を防ぐために寒冷紗等で被覆を行う。
- ③ 茎・葉の損傷が発生した場合は、薬剤防除・液肥の葉面散布等を行う。
- ④ 電照や夜冷育苗等、電気機器を使用する品目では、機器が正常に稼働するか点検・確認を実施する。

【ホオズキ】

(1) 事前対策

- ① 茎葉の損傷を軽減するために、支柱・ネットによりできるだけ株の固定を行う。
- ② ハウスのビニル被覆を剥ぐときに備え、防風ネット等で畦の周囲を覆う。

(2) 事後対策

施設花き全般に準ずる。

【コチョウラン他、冷房ハウス等】

(1) 事前対策

- ① 長期停電に備え、自家発電等を用意する。
- ② 夜冷育苗中のデルフィニウム等の苗は、夜冷库内に収納する。
- ③ 外部遮光、被覆等は除去するかハウス上部に巻き上げて固定する。

(2) 事後対策

- ① 落蕾等により停電した場合は冷房設定を再度確認する。
- ② 夜冷育苗の場合は、台風通過後、すみやかに遮光資材等の被覆を元に戻し、苗を夜冷库から外に出す。その他は施設花き全般に準ずる。

6 特用作物

【茶】

(1) 事前対策

- ① 1～2年生の茶園では、防風ネットを設置する。また、株元やマルチ資材への土寄せにより、株の揺れやマルチのばたつきを防止するとともに、排水対策を実施する。
- ② 2～3年生の茶園では、徒長枝の整剪枝を実施する。
- ③ 茶工場（煙突、屋根、雨とい、窓等）の点検・整備・補強を実施する。

(2) 事後対策

- ① 風雨による倒伏や地際部に損傷を受けた幼木園では、株元やマルチ資材への土寄せ、補修を実施する。
- ② 海からの風で塩分が付着したとみられる茶園では、塩分付着8時間以内にスプリンクラー等で散水（5 mm以上）し、塩分を除去する。
- ③ 強風により葉の損傷を受けた茶園では殺菌剤を散布する。
- ④ 滞水・浸食部分の速やかな排水処理と改修を実施する。

7 畜産

【畜産全般】

(1) 事前対策

- ① 畜舎の防風対策を十分に行い、特に開閉部はしっかりと固定するなど、破損に注意する。
- ② 特に山間部では、道路の通行止めが予想されるため、飼料（配合飼料、青刈り、サイレージ含）は、余裕をもって準備する。
- ③ 停電が予想されるので、発電機の手配とともに、試運転を事前に行う。
- ④ 断水の可能性がある場合には、最小限の飲水量を給水タンク等で確保する。
- ⑤ 家畜ふん尿等が、流出しないよう、必要な対策を行う。

(2) 事後対策

- ① 浸水した畜舎は、台風通過後に速やかに消毒する。

【養豚・養鶏】

(1) 事前対策

- ① 鶏舎内への雨の打ちこみを避け、床に湿り防止を行う。
- ② ウィンドウレス畜舎では、非常用発電機の燃料の確保と、点検を行い、停電時に換気扇が停止しないように注意する。

(2) 事後対策

- ① 台風通過後は、急激に気温が上昇することがあるので、肥育豚及び出荷前のブロイラーでは、畜舎を開放するなど換気に努める。

【飼料作物】

- ① 長期間の冠水により湿害が予想されるので、ほ場周辺に排水溝を設置し水が貯まりにくいようにする。冠水した場合は速やかに排水する。冠水した場合生育不良となるので水が引いた後、10aあたり窒素成分で1kg程度の追肥を行う。

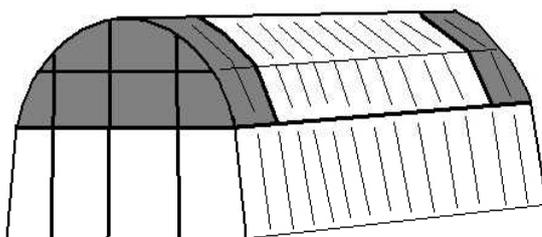
別添 「ハウス等施設の台風対策」

営農支援課

【事前対策】

① 防風ネットの設置
防風ネットはあらゆる強風対策の基本であり、必ず設置する。

② 被覆資材の補強
被覆資材がはがれる被害は、屋根の両端の破れが引き金となる。
図1の ■ 部分をネットで保護する。



③ 止水シートの点検
止水シートに破れや隙間がある場合は、早急に補修を行い、ハウス外からの浸水を防ぐ。

図1 被覆資材の補強

④ ハウス本体の補強
ハウスビニル等にシワ・タルミがあると、耐風性は大幅に低下する。必ず確認を行う。
サイドビニル、出入り口はしっかりと閉じて固定する。
ハウスバンドの本数を増やすとともに、締め直し補強する。ハウスバンドを止める両側のヨリ鋼線や支柱を支えるラセン杭も補強する。
硬質ハウスでは天窓の補強も重要となる。ロープ等でしっかりと固定する。

⑤ 排水対策の徹底
ハウス内に雨水が流入しないように、周囲の排水溝の整備を徹底する。また、ハウスが連棟の場合、谷水を「とい」などで排水路まで導き、ハウス内に入らないようにする。

⑥ 自動開閉装置対策
ハウスを締め切ったあと、温度センサーによって換気部が動き出さないように、設定温度の変更や装置の電源を切る等の対策を行う。

⑦ 燃料タンク対策
台風により、広範囲が冠水しているときに、燃料タンクが倒れたり、配管の破損等により燃料油が流出すると、農作物だけでなく施設周辺にも被害を及ぼすので、タンクの固定ボルトの増し締め、配管付近の片付けを行う。

⑧ 換気扇の利用
換気扇がある場合には、換気扇によってハウス内を低圧状態に保つことで、ハウスビニルの揺れを防止する。また、停電に備え非常用電源を準備する。

⑨ 倒壊の恐れがある場合
ハウス倒壊の危険がある場合には、押さえバンドを切ってビニールを除去し、ハウスの倒壊を防ぐ。
また、雨中の作業では、飛来物に注意し、転落事故にも気を付ける。

【事後対策】

通過後一気に晴れてしまうことが多いので、換気対策を優先し、換気部の補強を解き、自動開閉装置の設定を元に戻す。
ビニルが破損した場合は、速やかに補修する。
滞水した場合には、すみやかに排水を行なう。